

令和3年度 岩手県立宮古高等看護学院 学校運営評価

1 学校評価の目的

学院の学校運営、教育全般について評価を行い、組織的・継続的な改善を図る

2 学校評価の実施方法(評価者、評価時期)

- 1)教職員が評価表に基づき年度末までに評価を実施し、教員会議で協議する
- 2)1)の結果を教育運営会議で協議し最終評価とする

3 評価項目

学校運営に関する8項目の評価分類、40項目の評価項目について評価する

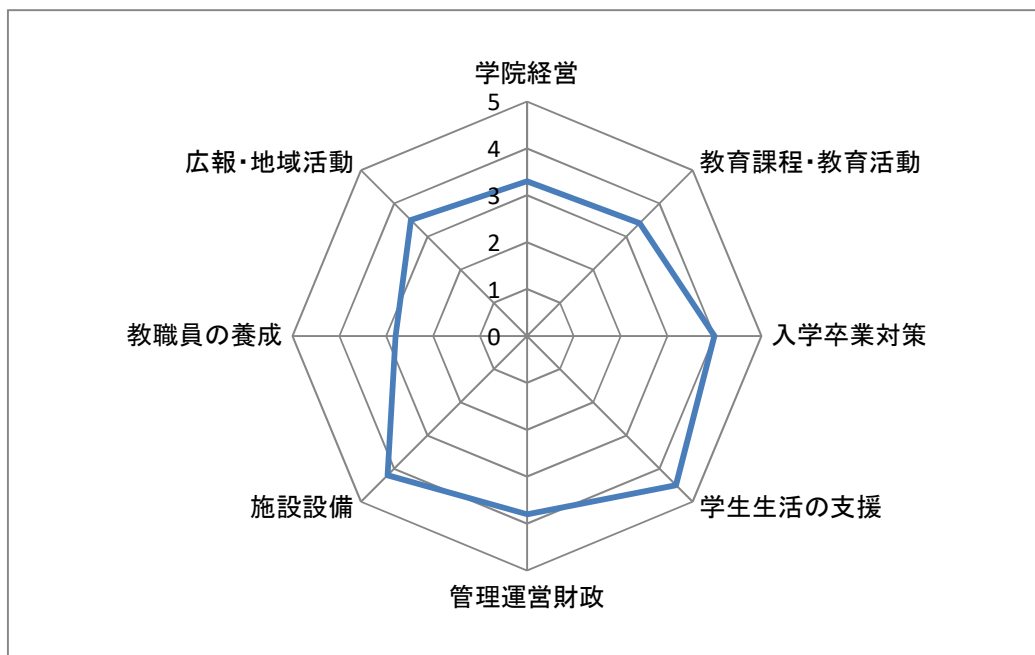
1	学院経営	5	管理運営財政
2	教育課程・教育活動	6	施設設備
3	入学卒業対策	7	教職員の養成
4	学生生活の支援	8	広報・地域活動

4 評価尺度

5:良い 4:やや良い 3:ふつう 2:やや不十分 1:不十分

5 評価結果

1	学院経営	3.3
2	教育課程・教育活動	3.4
3	入学卒業対策	4
4	学生生活の支援	4.5
5	管理運営財政	3.8
6	施設設備	4.2
7	教職員の養成	2.8
8	広報・地域活動	3.5



6 評価結果の分析

評価項目	現状	課題
学院運営	業務方針に基づいた主要課題(国試対策、主体的に学ぶ学生の育成、カリキュラム改正に向けた検討、優秀な入学生の定員確保、学習環境の整備、実習施設との連携、県内就業支援、社会人基礎力の育成)を立案し、主要課題から学年毎に年間目標、実行計画の具体策を立案、計画に基づいて実践した。教職員間の情報共有を定期的に行い、一貫した指導ができるよう取り組んだ。	令和3年度卒業生28名全員で第111回国家試験に臨み、全員合格であった。教育内容や教育方法、国師対策の充実に向け、継続して取り組む。
教育課程教育活動	学院の教育課程に沿って、各分野の多数の外部講師と調整を図りながら、学習内容や時間割を調整している。令和3年度より母性の専任教員を確保した。学生の主体的な学習を支援する手引きとして、シラバスを活用している。現行カリキュラムを評価し、学生の傾向や社会の変化に対応した教育内容の充実に図ることを目的として、2022年度から施行される新しい教育過程を作成した。	令和4年度入学生より、新カリキュラム施行となった。新設科目を導入した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の各科目の教育内容の充実に向け、引き続き検討する。
入学卒業対策	平成28年度より定員増となったが、令和3年度の受験者数は令和2年度より減少した。学校公開の開催はコロナの感染拡大に伴い中止とした。学生の出身高校へニュースレターやPRパンフレットを送付を企画し、完成したが郵送まで至らなかった。県内で開催される進学セミナー等へ参加し、学院のPRを実施した。令和3年度卒業生の県内就職率は80%であり、依然として県内就職率は高い。	受験者を確保するため、広報活動の一環としてホームページの充実に図る。令和4年度は、感染対策を講じて学校公開開催を検討し、ニュースレターやPRパンフレットを活用する。就職・進学について、学生個々の希望が達成できるよう引き続き支援する。
学生生活の支援	全学年の担任・副担任が中心となり、定期的に面談を実施、就職・進学や学生生活における悩みなど個別に対応している。また、学生ヘイターンシップやオンラインでの就職ガイダンス等の情報を提供し、進路決定を支援している。その他、奨学金に関する情報提供や手続きなど担当者を中心に支援している。1回/月、カウンセリングを実施しており、希望する学生が受けられるよう調整している。	経済的、精神的側面から支援し、学業に専念できる環境づくりに今後も継続して取り組む。
管理運営財政	年間の予算計画に基づき事業を執行している。監査の結果も概ね良好との評価であった。節電やリサイクル用紙使用など、可能な範囲で経費削減に努めている。災害発生時に教職員・学生が迅速に対応できるよう、災害対応マニュアルを改訂した。	学院運営に対する学生の意見や要望、改善が必要な事項について引き続き検討する。
施設設備	情報管理室のパソコンは一人1台使用可である他、Wi-Fi環境の整備を進めた。体育館、図書室、多目的ホール、カンファレンス室、講堂などは、学生の学習やサークル活動に活用されている。コロナ感染拡大に伴い、学内実習に切り替えた際に必要な教材を予算の範囲で計画的に購入した。また、購入した教材を活用し、学内実習に対応している。自宅待機を指示した学生に対しては、オンラインで教室とつなぎ授業に参加できるよう取り組んだ。	購入した教材を活用し、学内実習の充実に図るための教育方法を検討する。今後さらに、遠隔授業にスムーズに対応するための環境を整備する。
教職員の養成	岩手県看護協会が主催するラダー別スキルアップ研修会に参加した。コロナ感染拡大によりオンラインで研修を受講する機会が増え、カリキュラム改正に関連した研修を受講し、共有した。各教員が教育内容・教育方法の充実に目的として、担当する授業・実習について自己評価しているが、全員で共有することができなかった。	教員間で学内授業の参観や授業公開を計画したり、全教員の授業評価を共有する等、スキルアップに取り組む。
広報・地域活動	毎年ホームページを更新、授業や行事などタイムリーに学校生活に関する情報をしている。コロナ感染拡大の影響により、地域施設からのボランティア要請が減少した。学院周辺の美化活動や雪かき、高齢者施設へメッセージカードを作成して送るなど、学生自治会を中心に地域貢献活動を実施した。	令和4年度は、感染対策を講じて学校公開の開催を検討する。地域貢献活動については、学生自治会を中心に、引き続き可能な範囲で実施できるよう支援する。